

選挙最終盤での田中耕太郎候補への応援演説事例

(※演説時間に応じて、論点を整理します。)

こんばんは。「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」の〇〇〇です。今夜は、田中耕太郎候補の代理として、みなさんへのお願いにうかがいました。(田中候補の「線引き表」を確認して)田中耕太郎候補は、今日も、朝から晩まで、〇〇〇や〇〇〇を走りまわっています。この同じ時間にも〇〇〇で個人演説会を行っています。「人にやさしい県政をつくろう」という田中さんの声は、県下各地に広がっています。

7月5日の投票日には、ぜひともここにおられるたくさんの方が、ご家族・お友達とともに田中耕太郎候補への投票のために、お出かけいただきたいと思います。そして、7月5日を、県民が力をあわせて「憲法どおりの県政」を実現する歴史的な記念日としていきましょう。

さて、現在の県政を転換せねばならない理由はどこにあるのか。私は、その中心にあるのは、大企業にやさしく、県民につめたい今の県政の政治姿勢だと思っています。県内には、仕事がない、経営が成り立たない、生活が大変だという声がうずまいています。

その中で、1つ目に、いまの知事は、パナソニックの関連会社に1社だけで218億円の補助金を出すといっています。全国には大企業誘致のために補助金を出すという県がいくつもありますが、その金額は全国3位の和歌山が年間100億円、全国2位の大阪が年間150億円、それに対して兵庫県は全国唯一上限なしです。兵庫県政は全国で一番たくさんのお金を大企業に差し出す用意のある県政となっているわけです。

また、2つ目に、知事は、08年11月11日に、経済活性化にとって「関東大震災はチャンス」と語って私たちを驚かせました。それは阪神淡路大震災とその後の体験にもとづく知事の本音だったでしょう。実際、兵庫県は「創造的復興」という名前のもとに、県民の暮らしを震災前の状態にもどすための復興ではなく、大企業ばかりに仕事をまわす神戸空港や但馬空港などの大型開発に熱中してきました。その結果、たとえば但馬空港などは、いま開業しているだけで年5億円の県予算をつぎこむようになっています。田中耕太郎さんが但馬空港の視察に行った時に、ちょうど飛行機が降りてきた。そこで乗客の数を数えてみたら、たった17人だったそうです。

ところが、そうした失敗に、県政はまったくこりていません。こりるところか、新たに神戸空港と関西国際空港をつなぐ7000億円の海底トンネルや、6000億円の播磨臨海地域道路まで計画しています。海底トンネルは神戸空港に人を呼ぶためだといま

す。しかし、実際には、人は関空に逃げてしまうのではないのでしょうか。また播磨臨海地域道路は、図面をみると三菱重工・川崎重工・住友精化・神戸製鋼・山陽特殊鋼・新日鉄・ダイセルなど大企業の所有地ばかりを走ることになっています。これは、大企業の遊休地を県が高く買い上げてやるということではありません。

3つ目に、世界的な大問題となっている地球環境破壊の問題でも、兵庫県は年7300万tのCO2を排出する全国ワースト3の県となっています。その中心的な発生源は神戸製鋼所や関西電力ですが、これに積極的な削減策を求めています。世界的には、行政が企業と話し合い、企業にCO2排出の削減目標をつくらせ、これがキチンと実施されるかを点検するというのが当たり前になっています。しかし、それをやろうとしないのです。

まとめてみると、補助金も、大型開発も、環境問題も、どれをとっても今の県政は大企業奉仕ばかりのものとなっているわけです。

しかし、問題はそれだけではありません。こうした大企業奉仕のツケを、財政赤字を理由にして、まるまる県民のくらしにしわ寄せしているのがいまの県政です。まったくタチが悪いというほかありません。

この7月1日から老人・乳幼児・重度障がい者への医療助成が、295億円もカットされます。妊産婦健診への補助もカットです。この4つで2018年度までに332億円をカットするといっています。「新行革プラン」という県政の中心政策の一環です。生活が大変で病院に行きにくい。そういう人への行政の支援をカットするというのです。

また、大きな反対運動が起こっている尼崎の塚口病院をはじめ、12の県立病院の統廃合を各地ですすめています。先日、私の小さい子どもが救急車ではこばれました。高熱を出して、カラダが硬直し、呼吸が不規則になる熱性痙攣という、しろうと目にはとてもこわい症状でした。電話をかけて救急車がくるまでに10分、搬送先をさがすのに20分、病院へいくのに15分かかりました。もし近くに救急車を受け入れる病院がなければ、もっとうつと時間がかかったわけです。

ところが、県が統廃合を計画している塚口病院は年間28万人の患者があり、年間1000件以上の救急搬送がある病院です。こういう病院をつぶして、救急患者を乗せた救急車をもっと遠くまで走らせろというのは、文字通り、大企業奉仕とひきかえに、住民の命と健康を危険にさらすということです。

子どもの貧困も大きな問題です。お金がないから学校へいけない。これが高校生にとつ

でも大変に大きな問題になっています。県予算に定める教育予算の割合をみると、兵庫県は22%で、同一規模の県である神奈川39%、埼玉33%、千葉30%に比べ最低レベルとなっており、教育を支援する姿勢が格別に貧しい県となっています。

大企業にはとても甘いですが、県民には驚くほど冷たい。これがいまの県政の最大の特徴となっているわけです。前から読んで、後ろから読んで、イデオイデイです。

なぜ兵庫の県政は、こうまでいびつなものになってしまったのか。その理由は現知事の後援会である「新生兵庫をつくる会」の役員さんの顔ぶれを見ると良くわかります。この後援会の会長は兵庫トヨタの会長で、特別顧問には神戸商工会議所の会頭・神戸製鋼所元会長がすわっています。知事の支援者の中心が大企業そのものになっているのです。

6月18日に現知事が知事選に向けた第一声を発しましたが、この時、応援に駆けつけた神戸商工会議所の会頭はこういっています。「兵庫県民の生活とそしてその福祉とその向上というものは、あげて産業振興」にかかっている。「(現知事は) これまですこぶるつきあいの熱意をもって産業振興に邁進してこられた」「私ども経済界は、井戸さんの圧倒的勝利に向けて・・・応援していきたいという決意を新たにしている」。

つまり今の県政は、大企業のために全力でがんばる県政である。だから、「経済界」は全力でこれを応援していくというわけです。これが現在の兵庫県政の姿です。いまの県政は、兵庫財界お墨付きの県政だということを、財界自身が語ってくれているわけです。これでは、大企業に社会的責任をはたさせる政治はできません。各地ではたらく人々を苦しめている大企業の無法、無慈悲な非正規切りにストップをかけることもできません。

私たちが安心して暮らすことのできる兵庫県をつくるためには、知事を大企業の代表ではなく、県民の代表に転換していく必要があるのです。

県民のくらしを守ろうとしても財源がないのだから仕方がないという議論がありますが、そんなバカなことはありません。無駄をはぶけば、財源はつくれます。

たとえば県がすすめている国の事業、大阪湾岸道路の西伸部は、全長15^{km}に総額5000億円を投入するというものです。(両手をひろげて) 1メートルあたり、なんと3333万円です。10メートルで3億3330万円です。この演説会場の幅が〇〇メートルくらいですから、それで〇〇億円です。さらに100メートルで33億3300万円。1^{km}で333億3000万円です。

先ほど、この7月1日からの老人・乳幼児・重度障がい者への医療助成と妊産婦健診への補助金カットの合計が、2018年度までで332億円だと紹介しました。それは、この道路を1000メートル分の費用とちょうど同じくらいのものなのです。では、その分、短くしてはどうでしょう。12の県立病院の赤字は年間45億円ですが、それはこの道路を140メートル短くすればおつりがきます。赤字10年分でも1400メートルですむのです。

もちろん、こうした道路は、県のお金だけでなく、国などのお金とあわせてつくられるものです。しかし、そうであれば「兵庫県では県民のくらしが大変です」「こんな道路をつくるお金があるなら、県民のくらしのために使わせてください」と、国に交渉をしながら、県はそっせんして県民のためにお金をつかうべきではないでしょうか。そういう交渉を懸命にするのが県の政治の役割でしょう。

みなさん、こうした巨額の費用を必要とする道路、また関空と神戸空港をつなぐ7000億円の海底トンネルや、6000億円の播磨臨海地域道路は、本当に、いま急いでつくらねばならないものでしょうか。いくら海底トンネルをつくっても、大企業の所有地を買い上げて立派な道路をつくっても、お年寄り、子ども、障がい者、妊婦さんなど、県民の健康とくらしが改善されるわけではないではありませんか。

つまり財源がないことが県政の問題なのではないのです。いまある財源を、県民のために、人間のくらしを支えることにふりむける政治の姿勢がないこと、ここに県政の最大の問題があるのです。

国政では自民党・公明党との「対決」ポーズをとっている、民主党の県連や社民党さえもがこの県政の応援にまわっています。まったくなさない政党たちだと思います。あの小沢一郎さんさえ、兵庫の民主党はいまの知事を応援するなといいました。これも、いまの県政の実態をしめすひとつの参考になるでしょう。

こういう県政をなんとしても転換していこう。この県民の願いを一身に受けて、今回の知事選に立候補しているのが田中耕太郎候補です。田んぼの真ん中で耕す太郎さん。走れコータローの田中耕太郎さん。おぼえやすい名前です。7月5日の投票日に、100万人の人が田中耕太郎さんに投票してくれれば、こういう大企業奉仕ばかりの県政は根元から転換することができるのです。

(選挙本番のニュースピラをかかげながら) いま元町の選挙事務所には、毎日、県民のみなさんからたくさんの電話やメールが届いています。民主党や公明党の支持者だという

方からも、田中候補への応援の声が届いています。「大きな声ではいえないが、私はかくれ田中派だ」という声も聞こえてきます。政治をかえたいという願いはひろがっています。

(ビラをかかげながら) 田中耕太郎候補は、今回の選挙で6つのマニフェスト(公約)を示しています。1つは、お年より、障がい者にあたたかい県、2つは子育て応援日本一の県、3つは医療先進県をめざす、4つは雇用まもり、中小業者を応援、5つは環境まもり、農林漁業の未来を拓く、6つは非核・平和を世界に発信するというものです。神戸港には非核神戸方式があるので、兵庫県も平和行政はそこそこやっているんだろうと誤解している人もいますが、兵庫県は非核平和宣言をしていない全国8つの都県の1つです。平和行政後進県です。

ようするに田中さんのマニフェストは、人間を大切にしよう、はたらく人たちを応援しよう、県民が安心してらせる平和と地球環境づくりに努力しようというものです。

さらに田中耕太郎候補は、これらを実現するために3つの転換を訴えています。①「国いいなり」の官僚県政を転換、県民とあゆむ庶民知事へ、②「県民いじめ」の県政からくらし・福祉・教育応援の県政へ、③環境と財政つぶすムダをやめ、「ムダ・ゼロ」の県政へというものです。

すでに私たち「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」は、県下30の地域にその地域ごとの憲法県政の会をつくってきました。シンボルカラーをオレンジ色と決めて、各地で創意ある取り組みを行っています。また6月29日には「夕焼けオレンジ大作戦」という、夕方から駅前まで、オレンジTシャツを着て、田中候補への投票を一斉によびかけるという取り組みを行います。

こうした私たちの取り組みとは対照的に、今の知事は、老人会など水面下で従来の支持基盤をかためながらも、県政の問題点が多く、県民に明らかにならないように、表立った取り組みをあまりしない、県政のあり方が大きな話題になることを避ける作戦に出ているようです。

その中で、「神戸新聞」6月19日付が(新聞記事を見せながら)「医療負担増めぐり攻防／新行革プラン「福祉の切捨て」新人・田中氏 「過大部分見直し」現職・井戸氏」と書いたように、県民のくらしをまもる気持ちがあるのかないのか、そこが知事選の根本争点だということが、多くの人の共通認識となってきています。それを争点におしあげてきたのは、私たちのビラやポスターやクチュミの力です。私たちの力は、マスコミを動かすものでもあるわけです。

みなさん、県政は県民のためにあるものです。この大義は、まちがいなく私たちの側にあります。そして、私たちにはこの県政をつくりかえていく力があります。みなさん、今日の私たちの話も大いに活用していただきながら、ご近所のみなさんに、お知り合いのみなさんに、ぜひとも兵庫県政の問題点を語ってください。そして、7月5日は投票に行こうとよびかけてください。

今度の選挙は田中耕太郎だよ。田んぼの真ん中で耕す太郎さんだよ、走れコータローさんだよ、と伝えてあげてください。投票率が上がれば、いまの県政への批判票は増えていきます。どうせ政治はかわらないなどとあきらめるのではなく、投票所に行って政治を変えようと、まわりのみなさんを励ましてください。私たち、みなさん方には、一票という大きな力があるのですから。

県民の生活を第一に考える田中耕太郎兵庫県知事の実現に向け、人間の命とくらしを第一に考える田中耕太郎兵庫県知事の実現に向け、みなさんの最後までのご支援を心よりお願いいたします。7月5日、最後の最後まで、ともにがんばりましょう。